

上田市文化財調査報告書第30集

下之郷古墳群

下之郷古墳群分布調査報告書

1988. 1

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第30集

下之郷古墳群

下之郷古墳群分布調査報告書

1988. 1

上田市教育委員会

序

上田市下之郷地区は生島足島神社をはじめ、上田市だけでなく、信濃国の古代史を解明する上で、きわめて重要な史跡・遺跡が数多く存在する地域です。

このたび、この下之郷地籍に浅間テクノポリス構想の一環である上田リサーチパーク建設の計画策定の話が持ち上がり、この事前調査として他山塚古墳・塚穴原古墳を中心とする下之郷古墳群の詳細分布調査を実施しました。

上田市ではすでに昭和46～48年度、市内全城の埋蔵文化財分布調査を実施しており、その結果は『上田市の原始・古代文化』（上田市教育委員会発行）に報告しておりますが、個々の古墳の正確な所在は一部のものを除いてほとんど知られていませんでした。

調査は調査団長を上田市文化財保護審議会委員の五十嵐幹雄先生にお願いし、樹木の芽吹く前の、幾分寒さの残る四月に実施されました。

その結果、従来確認されていなかった古墳が幾つも確認されるなど、貴重な発見となりました。その一方、農地開発等により、湮滅してしまった古墳も幾つかある事が知られ、埋蔵文化財保護の難しさを痛感しました。

今回の調査に御尽力いただいた五十嵐団長をはじめとする調査団の諸先生方、御協力いただいた地元の皆さん、並びに作業員の皆さんに心より感謝申し上げる次第であります。

昭和63年1月30日

上田市教育長 赤羽 翟

例　　言

1. 本書は上田リサイクルパーク建設事業に先立ち、上田市大字下之郷、及び大字富士山に所在する下之郷古墳群に関する詳細分布調査報告書である。
2. 本調査は市単独事業として、上田市教育委員会が主体となって実施したものである。現場の分布調査は昭和62年4月13日から昭和62年4月25日にかけて、東山古墳群ほか分布調査団に事業委託して実施された。
3. 本書の執筆分担は下記のとおりである。

第1章……………事務局 第3章……………塩崎 幸夫
第2章……………五十嵐幹雄 第4章……………五十嵐幹雄

4. 本書の編集は執筆者と協議しながら事務局が担当した。
5. 本書に掲載した写真は塩崎が撮影したものを使用した。
6. 今回の調査に関わる図面、遺物、写真等は全て上田市教育委員会の責任下に保管されている。
7. 本書が上梓されるまでには多くの方々、諸機関より御指導、御協力をいただいた。敬意と感謝の意を表するものである。

凡　　例

1. 今回の分布調査は地上露出部分についての調査で、地下に埋没している石室、周溝等は未調査である。そのため、古墳と明らかでない墳丘や破壊された古墳の石材が集積されたと推定される箇所についても便宜的に全て古墳として扱い、その旨文中に記した。今後、改めて内部構造等の詳細な調査を実施し確認されることを期待したい。
2. 既に湮滅した古墳、今回の調査で確認できなかった古墳についても過去の文献に記載されたものは可能な限り収録するように努めた。
3. 今回の調査では小牧山塊南西部のほぼ全域を踏査したが、雑木の繁茂、クマ笹の密生等により、充分に調査しえなかつた地域があることを記しておく。また、当該地域には須恵器の占塗跡も分布しており、今後更に詳細な調査が実施されることを期待したい。
4. 古墳の名称は小字名、地元の呼称を基本とし、従来使用されてきた名称に誤りのあるものは改名し、その旨文中に記した。
5. 古墳の計測は分布調査であるため、地上から確認できる規模で行った。従って、文中の計測値は発掘調査が実施された古墳を除き概数値である。
6. 一覧表の備考欄に記した番号と古墳名称は「上田市の原始・古墳文化」に記載されたものである。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第1章 調査の経過	
第1節 調査の経過	1
第2節 調査団の編成	1
第3節 調査日誌	2
第2章 下之郷古墳群の環境概観	3
第3章 調査の結果	
第1節 分布概要	7
第2節 各古墳の概略	8
下之郷古墳群一覧表	14
第4章 総括	16
図版	19

第1章 調査の経過

第1節 調査の経過

昭和62年度、浅間テクノポリス構想の一環である上田リサーチパーク建設計画策定に当り、その事業予定地内に東山古墳群を初めとする下之郷古墳群が存在していた。このため担当課より各古墳の詳細な分布状況について調査依頼があり、この調査を実施することに決定した。

4月13日、現地で打ち合わせの後、調査を開始した。山中には至る所に、風倒木・剝があり、また、期間中には大規模な山林火災が発生するなど、調査の進行を妨げられたが、従来確認されずにいた古墳が発見されるなど、成果を収めた。

現地での調査は4月25日までを行い、これ以降は市立信濃国分寺資料館等において整理、報告書の作成が行われた。昭和63年1月30日、調査報告書を刊行し、調査は終了した。

第2節 調査団の編成

上田市教育委員会は上田市文化財調査委員会（現上田市文化財保護審議会）の答申に基いて、新たに東山古墳群ほか分布調査団を編成し、分布調査を同調査団に事業委託して調査を実施した。調査団の構成は次のとおりである。

東山古墳群ほか分布調査団名簿

團 長 五十嵐幹雄（上田市文化財保護審議会委員・日本考古学協会会員）

調査員 小池雅夫（上田市文化財保護審議会委員・上田小県誌編纂会委員）

" 塩入秀敏（上田市女子短期大学助教授・日本考古学協会会員）

" 中沢徳士（上田市教育委員会社会教育課学芸員）

調査補助員 塩崎幸人（長野県考古学会員）

調査協力者 伊藤信平・村山惣一・深町三郎・末永成清

事務局長 清水万伴（上田市教育委員会社会教育課長）

事務局次長 内藤良典（上田市教育委員会社会教育課文化係長）

事務局員 中沢徳士（上田市教育委員会社会教育課学芸員）

第3節 調査日誌

昭和62年

- 4月13日(月) 午前中打ち合わせの後、地元の村山・伊藤尚氏の案内で、紅平山を中心に既知の古墳の調査を行う。
- 4月14日(火) 昨日に引き続き、東山一帯の調査を行う。
- 4月15日(水) 東山山塊の全面踏査に入る。神姫・前中山・紅平山にかけて調査する。
- 4月16日(木) 浅間原～雲雀地籍にかけて調査する。
- 4月17日(金) 紅平山近辺の調査。
- 4月20日(月) 下堂寺地籍の調査。
- 4月21日(火) 下堂寺～明神平地籍にかけて調査。
- 4月22日(水)
- ～23日(木) 山林火災発生により、調査中断。
- 4月24日(金) 浅間原～東山南辺にかけて調査。
- 4月25日(土) 東山東辺及び北の入沢西部にかけて調査。

この後、各古墳の正確な分布状況を地図上に示すため、測量を術写真測図研究所に委託する一方、信濃国分寺資料館等において整理、報告書作成作業を行い、昭和63年1月30日、調査報告書が刊行し、分布調査は終了した。

第2章 下之郷古墳群の環境概観

今回所在古墳の分布調査を実施した「上田市下之郷地区」とは、小牧山塊の西側部であり、塩田平の東方に位置しており、通称「東山地区」と呼ばれている。

小牧山塊はほぼ平行四辺形に似たブロック状の山塊で、北西から南東方向に走る二つの山脈からなり、その中央に凹地があり須川湖をつくっている。北斜面は急でその先端は千曲川に臨む断崖となり、東側面は中腹に尾野山の平地をおき、その先端は依田川に切られている。西側面から南側は緩い傾斜面となり、南側面の中央に二木峠（標高580m）があり、西南側面と東南側面とに分けている。東山地区は小牧山塊のうち西側面と西南側面の緩い傾斜面に位置しているということができる。

西側面のうち、その北部は上田市城下地区に面しており、尾根上から中腹及び山麓にかけて、多数の古墳のあることが知られている。この傾斜面につづき西側傾斜面から西南傾斜面、すなわち東山地区一帯にも数多く古墳のあることが早くから知られ、多くの先駆によって、調査報告されている。

東山地区的面する塩田平は千曲川左岸にあり上田盆地の西半部となっている。北は千曲川に向かって広く開けているのに対し、南に独鉢山脈があり、その西端から北へ川西丘陵が遙って境し、独鉢山脈の東端から北へ向かうのが小牧山塊であり、したがって塩田平は北に開け、他の三方は山地に囲繞され、東北の幅に対し南北が狭く、その面積およそ数千平方メートルといわれている。

この平地に対し東部には砂礫質壤土の尾根川、中央部では砂質壤土の庵川が、西部では強粘土質の湯川がそれぞれ北流している。このうち最も大きな水系は庵川であり、その砂質壤土が、他の土壤面に堆積し、塩田平の大部を占めている。

この様な塩田平にはIII石器時代の遺物はいまだ知られていない。

縄文時代では塩田平の西南隅に当る別所温泉の南上方に位置する「塩水」遺跡で縄文前期の茅山式土器に比定される遺物が採集されるのが収集のものである。中期になると、三つの側縁の山麓扇状地をはじめ開拓された平地に数多くの遺跡が知られている。ことに庵川流域のうち西塩田地区籍の手塚区から十人区に亘っては、検田見遺跡をはじめとする大規模な遺跡が知られている。そしてその北端千曲川段丘上の上田原、塚原遺跡まで塩田平全域に亘って知ることができる。

縄文時代後・晚期の遺跡については塩田平に西隣する浦里地籍の下前冲遺跡が知られているが、いわゆる塩田平では明確に知られていない。

弥生時代になると再度、塩田平には多数の遺跡が散在している。ことに庵川流域では、土地の平らなこと、堆積土が肥沃な砂質土壤であることから原始稲作に適することから大規模な遺跡が知られている。そして土師器、須恵器などの出土地点はその数をさらに増加していることが知られている。しかしこれらの土器類の編年的研究はいまだ不充分のため、所属年代の決定ができない

いのが実情である。遺跡の数多いことは自然的な条件に恵まれていたとの推察は容易なことである。

これらの土器を使った人々によって、塩田平の開発は進められ、数多くの古墳が築造され、国造のいたところであり、一説には創置の国府があったといわれるほどになった。これらの発展が延喜式内社の生島足島神社、塩野神社の創建となっている。

今回調査した「下之郷古墳群」はこのような歴史的経過を証する貴重な文化財ということができる。そして今日塩田平が「信州の鎌倉」といわれるほどの国宝・重文等の文化財を残している基盤となっているといっても過言ではない。



建設省国土地理院

第3章 調査の結果

第1節 分布概要

塩田平の北東部に位置する小牧山塊南西部の山腹と山麓一帯には、古くより東信地方で最大規模の下之郷古墳群の存在することが知られており、東山古墳群、あるいは東塩川古墳群などと呼ばれてきた。しかしながら、この古墳群に関する調査は比較的少なく、『小県郡史』(大正11年)には明治初年頃まで東山一帯に40数基の古墳群が存在したことを伝えているものの、その後の『信濃史料』では紅平、下堂寺、東山、上雲雀など数基の古墳について触れているのみである。

本古墳群について具体的な調査が行われたのは、昭和47年8月に実施された他田塚古墳の発掘調査が最初である。小林幹男氏は同古墳の報告に際し周辺の分布調査を行い、20数基の古墳を東山、紅平山、雲雀の3支群に分け、一帯の古墳群を下之郷古墳群と総称した。小林氏はその後、『上田市の原始・古代文化』において51基の古墳を挙げ、更に湮滅した古墳が20基以上存在したことを探している。また、昭和50年には、本古墳群最大の規模を持つ塚穴原1号墳の発掘調査が実施され、大きな成果を収めた。

今回の分布調査では『上田市の原始・古代文化』を参考にしながら、小牧山塊の南側全域を踏査し、既知の古墳の確認と新たな古墳の発見に努めた。その結果、紅平地域を中心に多くの古墳が発見され、下之郷古墳群が予想以上の広範囲に分布していることが確認された。しかし、最近の山林の荒廃は想像以上にひどく、雑木、下草が繁茂し調査が充分に行えない地域もあった。また、全体に保存状態は余り良好とは言えず、約半数の古墳が既に湮滅しており、残りの古墳も石橋や庭石用の石材に搬出され、破壊が進んでいる状態であった。

今回の分布調査で確認された43基にのぼる下之郷古墳群は大きさは紅平、東山、雲雀の3群に分けられるが、本書では古墳の立地位置などを考慮して前中山、物見山、紅平、下堂寺、小森山、東山、塚穴原、雲雀、大平の9支群に分けることとした。

前中山、物見山両古墳支群は共に山頂部に所在する古墳群である。紅平古墳支群は長野大学北側の山腹に広く分布する。下堂寺古墳支群はバイオテクノロジー研究所の北側の山沢に、小森山古墳支群は南側の小尾根上にそれぞれ分布する。また、東山古墳支群は生島足島神社奥社の周辺に分布し、塚穴原古墳支群はその山麓に所在して下之郷古墳群の中心的位置を占めている。雲雀古墳支群は浅間池周辺の丘陵上に分布し、その東方に大平古墳支群が分布している。この両地域の古墳群は人參畠の造成などにより最も破壊が進んでいる地域である。

下之郷古墳群は從来、信濃国造塩田所在説の有力な根拠として論じられてきたが、その調査は未だ詳しく述べたばかりである。今後の詳細な調査に期待したい。

第2節 各古墳の概略

(1) 前中山古墳支群

1 前中山1号墳

上田女子短期大学の北方、標高495mの山頂部に所在する。墳丘はかなり削平されているものの、南北径17m、東西径15m、高さ1.2mを測る。墳頂部に松の大木と石祠があり、石祠の付近より直刀が出土している。

2 前中山2号墳

前中山1号墳の南側に続き墳丘の裾を接するようにして尾根上に所在する。墳丘は殆ど失われており、現在の規模は南北径12m、東西径9m、高さ1.1mを測る。北東部に横穴式石室の奥壁基部と推定される幅1.6m、厚さ0.5mの大石が僅かに露出している。

(2) 物見山古墳支群

3 物見山1号墳

原峰西方の物見山山頂部（標高約640m）に所在する。墳丘は中央部が陥没し、規模は南北径、東西径とも7.5m、高さ0.7mを測るが、石室の存否は不明でマウンドも非常に軟らかい。

4 物見山2号墳

物見山1号墳の北西方向に延びる尾根の先端部に所在する。墳丘は南北径5.0m、東西径5.5m、高さ0.6mを測るが石室の存否は不明である。

5 物見山3号墳

物見山2号墳の南側に接して所在し、双円墳状を呈している。墳丘は墳頂部が西南西方向に向かって陥没し、規模は南北径6.5m、東西径5.5m、高さ0.8mを測る。石室の所在は不明である。

(3) 紅平古墳支群

6 紅平1号墳

物見山1号墳の南西方向に延びる尾根の先端部に所在する。かつて横穴式石室を持つ古墳が存在したと伝えられるが現在は削平され、大小多数の石が散在しているのみである。また、自然石の上に流れ造りの屋根部を載せた石祠があり余比羅宮を祭っていたが、昭和62年4月の山火事以降行方が不明となっている。

7 紅平2号墳

紅平1号墳の南西下方、標高605m付近の山腹傾斜地に所在する。墳丘は石室の石が抜き取られ馬蹄形を呈している。規模は南北径9m、東西径8m、高さ1.2mを測り、南東方向に開口している。

8 紅平3号墳

自然運動公園より原峰に向かう林道を約350m登った地点の分岐点から北西方向の林道に入り、更に500m程進んだ道路北側の山腹に所在する。墳丘は南北径、東西径とも6.5m、高さ0.8mの不整円形を呈し、墳丘上に幅1.3m、厚さ50cm、地上高80cmの石が1点露出しているが石室の所在は明確ではない。

9 紅平4号墳

紅平3号墳の南東方向約20mの山腹に所在する。墳丘は良好な円墳状を呈し、規模は南北径8m、東西径15m、高さ2mを測るが石室の所在は不明である。

10 紅平5号墳

紅平3号墳より少し下がった道路南側の斜面に所在し、石室に用いられたと思われる大小の石が点在している。しかし、現地点はかなりの急傾斜地であり、古墳が所在していたとは考え難い。

11 紅平6号墳

紅平3号墳や同5号墳の所在する地点から林道を更に100m程登ると神畠からの山道との分岐点があり、神畠方向へ70m程下がった左側山腹に所在する。墳丘は石室の石材が抜き取られ馬蹄形を呈している。残存する規模は南北径、東西径とも約10m、高さ1.2mを測る。

12 紅平7号墳

紅平6号墳の南東方向約50mの山沢に近い山腹に所在する。墳丘は良好に遺存するが石室の所在は不明である。規模は南北径8.5m、東西径11.5m、高さは1.1mを測る。

13 紅平8号墳

紅平7号墳の南東方向約60mの山腹に所在する。墳丘は南北径7.0m、東西径8.3m、高さ1.5mを測る。石室の所在は不明である。

14 紅平9号墳

紅平8号墳の南方約20mに所在する。墳丘は径約11m、高さ1mの円墳状を呈するが石室の所在は不明である。

15 紅平10号墳

紅平7号墳の南西方向約50m、同8号墳の西方約40mの山沢沿いに所在する。石室の石と推定される大石数点が集積されたようにして所在するが、墳丘は無く、立地位置や東側が畑地として開墾されたことなどから、東側畑地もしくは上方山中で破壊された古墳の石材が移動されて集積された地点と推定される。

16 紅平11号墳

紅平10号墳の沢沿いの下方約20mの地点に明らかに古墳の石材に用いられたと思われる大小の石が集積されている。10号墳と同様に破壊された古墳から移動して集積されたものと推定されるが、現地点にも僅かなマウンドが認められ、なお、慎重な検討を要するものと思われる。

17 紅平12号墳

紅平11号墳の下方約80mの沢の中央部に周囲に土留めの石を廻らせた墳丘が所在する。立地的に疑問があるがマウンドは南北径10m、東西径8.5m、高さ1.4mを測る。石室の所在は不明である。

18 紅平13号墳

自然運動公園から原峰に向かう林道を約350m登った地点の分岐点から北西方向の道を150m程進むと林道が大きく湾曲する地点があり、そこから北方山中に約70m入った山腹に所在する。墳丘は破壊が進んでおり、残存する規模は南北径、東西径とも5.5m、高さ1mを測る。墳丘上に奥壁と左側壁の基部と推定される大石が2点露出しており、前者は幅100cm、厚さ40cm、地上高75cm、後者は幅70cm、厚さ25cm、地上高40cmを測る。

19 紅平14号墳

紅平13号墳より東北東方向に30m程進んだ小尾根に近い山腹に所在する。墳丘は南側で削平を受けているが北側は良好に遺存しており、規模は南北径、東西径とも9.5m、高さ3mを測る。石室は狭道部と玄室前部の上部が破壊されているものの、奥壁付近の遺存状況は非常に良好で天井石も最奥の1枚が残存していた。石室の主軸方向はほぼ南北で、奥壁は上下2枚の磐石で構成されており、上部の石は幅100cm、高さ75cm、下部の石は幅90cm、崩落土までの高さ30cmを測る。側壁は比較的人きな割石や塊石を用いた乱積みで構成されている。また、奥壁付近の隙間には黄白色の漆喰状の物質が充填されているのが看取されたが、当地方では他に例のない極めて珍しい構築法であり注目される。

(4) 下堂寺古墳群

20 下堂寺1号墳

『上田市の原始・古代文化』には「長野大学の南方約100mの地点から、更に小川沿いに南方山麓への道を約1kmほど登った畠地にあったが、ブルトーザーで整地した際に破壊したといわれる。現状は数個所に古墳のものと思われる大石が残っている。」と記載されているが、現在ではその所在は全く不明である。

21 下堂寺2号墳

ゴルフ練習場北側の自然遊歩道入口より西方に約200m進んだ遊歩道北側のやや広い山沢中に所在する。墳丘の遺存は比較的良好で南北径17m、東西径15m、高さ1.4mを測る円墳である。石室は上部が失われ、河原石を用いた側壁基部の一部が露出している。

22 下堂寺3号墳

自然遊歩道入口より、沢伝いにバクチ岩に向かい約400m登った遊歩道北側の沢の中央部に所在する。立地位置にやや難があるものの、頂部の陥没した墳丘様のマウンドと大石数点が存在している。

(5) 小森山古墳支群

23 小森山1号墳

自然運動公園の東方に昭和62年完成したバイオテクノロジー研究所の東側、標高約535mの小尾根上に所在する。本古墳は『上田市の原始・古代文化』には紅平山1号墳として記載されている古墳であるが、墳丘はかなり削平され、墳頂部の陥没した不整円形を呈している。残存する規模は南北径12m、東西径11m、高さ1mを測る。墳丘上及び周辺に石室の石材と推測される大小の石が散在している。

24 小森山2号墳

小森山1号墳の西南西方向約30mの地点に所在する。『上田市の原始・古代文化』には紅平山2号墳として記載されており、径12.5m、高さ2mとあるが、その後の破壊が著しく、現在の規模は径6.5m、高さ0.5mを測るのみである。

25 小森山3号墳

小森山2号墳の西南西方向約60mの地点、小尾根の先端部に所在し、『上田市の原始・古代文化』には紅平山3号墳として記載されている。最近の破壊が最も著しく、墳丘の一部がバイオテクノロジー研究所の盛土で埋められてしまった。現在の規模は径12.5m、高さ1mで、不整円形を呈する。地元の人の話では本古墳は本塚と呼ばれており、最近まで石室の大石が露出していたそうであるが、現在では小礫が散在するのみである。

(6) 東山古墳支群

26 東山1号墳

『小県郡史』、『信濃史料』、『上田市の原始・古代文化』等に東山古墳支群最東端の古墳として挙げられているが、今回の踏査では確認できなかった。『上田市の原始・古代文化』によれば標高700m付近の東山山頂部に所在し、径6.4mの円墳で半壌状態ということである。

27 東山2号墳

明神平地籍と長政地籍の境にあたる緩やかな沢の中央部に所在する。生島足島神社奥社の上方より自然遊歩道入口へ向かう遊歩道の休憩所脇にあり、墳丘は全体に破壊が進んでいるが、現在の規模は南北径、東西径ともに14m、高さ1.4mを測る。墳丘上に側壁基部の一部が露出しており、周囲にも天井石や側壁に用いられたと推定される石が多数点在している。なお、調査時に墳頂部より外面に平行タタキ目痕を有し、暗灰色を呈する須恵器甕の肩部片が1点表採された。

28~56 東山3~31号墳

東山西側の明神平地籍一帯に分布し、前記の東山1号墳や、後述する塚穴原地籍の古墳群などと共に東信地方最大規模の東山古墳支群を形成するとされている古墳群である。『小県郡史』では明治初年頃に40数基の塚が存在していたことを記載しており、『上田市の原始・古代文化』では29基

の古墳が確認されたと記載されている。しかし、当時既にその殆どが湮滅しており、残余の石や地元の人の話などから所在を確認したものであった。それらの中で明確な墳丘を残していた古墳は2基に過ぎず、残余の石材等を確認できた古墳も5基程に過ぎない状態であった。

今回の調査では山林の荒廃が著しく十分に踏査できず確認できた古墳は後述の4基のみであった。本報告書の刊行に当たり、「上田市の原始・古代文化」との照合を試みたのであるが、相互の位置関係や規模等において明確に照合できなかったので、今回確認された4基は「上田市の原始古代文化」の番号に後続させることとした。なお、湮滅したとされている古墳も地下に周溝や石室下部等が遺存していることがあり、発掘調査により規模が確認できる場合がある。本古墳群については特にその学術的価値に鑑み、詳細な調査が実施されることを期待したい。

57 東山32号墳

生島足島神社奥社の南東方向約50m、標高約580mの山腹に所在する。墳丘は比較的良好に遺存し、若干の葺石が認められる。規模は南北径18m、東西径15m、高さ2.2mを測る。墳頂部が陥没しており、石室の石が崩落している。石室は南西方向に開口している。本古墳は遺存状況から推測して「上田市の原始・古代文化」に記載された明神平1・2号墳のいずれかに該当する可能性があるが、双方とも他墳との位置関係、墳丘規模等に於いて疑問が残り明確に照合できなかった。

58 東山33号墳

明神平地籍の中央部、標高約570mの山腹に生島足島神社の奥社が鎮座しているが、その石祠の基壇に古墳の大井石と推定される平石が用いられている。若干のマウンドも認められるが、現位置に古墳が所在しているかは明確ではない。「上田市の原始・古代文化」には明神平21号墳が天井石の上に祠が載り、墳丘の推定径約18mとあり近似した状況を呈するが、生島足島神社の奥社石祠とは明記されておらず、前記32号墳との位置関係、墳丘規模等から疑問が残る。

59 東山34号墳

山麓より生島足島神社奥社へ登る参道の中腹南側、標高約555m付近に所在する。かつては整備されていた参道も現在では雑木が繁茂し、両脇の松並木によって僅かに知れるのみである。墳丘は削平が著しく、残存する規模は南北径3.5m、東西径5.5m、高さ1.3mを測る長方形に近い不整形を呈している。石室は破壊されており墳丘上と周辺に10点余の石が集積されている。「上田市の原始・古代文化」に記載された明神平22~29号墳のいずれかに該当するものと思われるが各古墳の状況、相互の位置関係が不明のため特定しかねる。

60 東山35号墳

東山34号墳の南方約120mの山沢中に大小合わせて約20余点の石が散在している地点がある。墳丘は無く、現位置に古墳が所在したのか、他の古墳の石材が集積された地点なのか、地上の状況だけでは判断しかねる状態である。東山34号墳と同様、明神平22~29号墳のいずれかに該当する可能性があるが、前述したように各古墳の位置関係等が明確で無いため、特定し難い。

(7) 塚穴原古墳支群

61 他田塚古墳

東山山麓の南西方に発達した扇状地の扇頂部（標高約525m）に所在し、後述する塚穴原1号墳と共に下之郷古墳群の主墳的な位置を占めている。昭和47年に市指定文化財となり、同年発掘調査が実施された。墳丘は南北径18.5m、東西径17.2m、高さ4mを測る円墳で、石室は主軸方向をN-45°-Eに持ち、奥壁幅1.65m、高さ2.5m、全長9.95mを測る袖無型横穴式石室であった。出土遺物は人骨の他、勾玉、管玉、切子玉、臼玉、丸玉、小玉、耳環、直刀、刀子、鉄鎌、刀装具、馬具、土師器、須恵器等があり、現在、上田市立信濃國分寺資料館に収蔵、展示されている。

62 塚穴原1号墳

他田塚古墳の東北東方向約100mの山麓に所在する、下之郷古墳群最大の古墳である。昭和50年に発掘調査が実施され、昭和53年に市指定文化財に指定された。墳丘は南北径20.5m、東西径21.5m、高さ3.3mを測る南北方向へ張出した偏円形を呈し、周濠を有していた。石室は主軸方向をN-43°-Eに持ち、奥壁幅2.1m、全長7.2mを測る袖無型横穴式石室である。出土した遺物は5体以上の人骨の他、臼玉、丸玉、小玉、耳環、直刀、刀子、鉄鎌、刀装具、馬具、土師器、須恵器等非常に豊富で、現在、上田市立信濃國分寺資料館に収蔵、展示されている。

63 塚穴原2号墳

塚穴原1号墳西方の道路脇に並立して所在する。墳丘は墳頂部が僅かに陥没しているが比較的良好に遺存しており、規模は南北径15m、東西径12.5m、高さ1.7mを測る。

64・65 塚穴原3・4号墳

「上田市の原始・古代文化」によれば他田塚古墳の南方約50mに塚穴原3号墳が所在し、側壁の一部が残存していたが、現在では人参等の耕作により壊滅している。また、4号墳も他田塚古墳の北西方向約50mの地点に所在していたが、当時既に壊滅していた。

66・67 宮原1・2号墳

「上田市の原始・古代文化」には「生島足鳥神社の御旅所にあり、1号墳は径7.2m、高さ1.4m。2号墳は径7m、高さ1.3mの円墳であるが、石室の存在が明らかでなく、古墳とするには疑問が残る。」とあり、境内北側のマウンドが該当するものと思われる。

(8) 雲雀古墳支群

68 上雲雀1号墳

浅間池の東南東方向約300mの丘陵南斜面に所在する。墳丘の遺存状況は比較的良好で規模は南北径8.7m、東西径8.0m、高さ1.5mを測る。墳頂部が陥没しており、側壁の一部が露出している。

69 上雲雀2号墳

「上田市の原始・古代文化」には1号墳の南方約15mに側壁の基礎石2枚を残した古墳として記載されている。しかし、今回の調査では1号墳の南西方向5m程の近距離で同様の石を確認したもの、他に該当すべき箇所が無く、位置関係に疑問があるが2号墳としておきたい。

70 上雲雀3号墳

上雲雀1号墳の南西方向約50mに所在する。墳丘は失われており、石室奥壁と東側壁の基部と推測される2枚の平石が直立する形で立っている。前者は幅1.3m、厚さ20cm、地上高80cm、後者は幅1.2m、厚さ40cm、地上高50cmを測る。

71・72 下雲雀1・2号墳

1号墳は浅間池の西方約150mの丘陵上に所在する。北側は畠地となっており一部削平されているものの、規模は南北径7m、東西径8m、高さ1.5mを測る。墳頂部が僅かに陥没しているが石室の所在は不明である。『上田市の原始・古代文化』に中雲雀古墳として記載されている古墳が該当する。また、2号墳は1号墳の南西方向の現水田地に所在していたが、圃場整備等により消滅したようである。

73・74 入雲雀1・2号墳

『他山塚古墳発掘調査報告書』に入雲雀地籍に2基の古墳が所在し、1号墳は全壙、2号墳は僅かに側壁の一部が残ると記載されているが、現在ではその所在は不明である。

75 浅間原古墳

『上田市の原始・古代文化』に「上雲雀1号墳の東北方約100mの山麓畠地にあり、昭和30年に破壊された。土地所有者の話を総合すると、中規模の横穴式石室があり、すでに墳丘は失われていたらしい。」と記載されているが、現在ではその正確な位置は不明である。

76 夫婦古墳

『長野県史』考古史料編遺跡地名表に浅間原地籍に所在する円墳として記載されているが、位置、現状等は確認できなかった。

77 笹塚古墳

『小県郡史』(大正11年)によれば、上雲雀1号墳の南方約150mの篠塚地蔵山麓に奥行約4.5m、幅1.8mの石室の一部が残存していたことが記載されているが、現在では消滅している。

78・79 塚原1・2号墳

『上田市の原始・古代文化』には篠塚古墳の東方約300mの山麓畠地に、50m程離れて2基の古墳が所在し、側壁の基礎石を一部残していると記載されているが、現在では消滅している。

(9) 大平古墳支群

80 大平1号墳

浅間池の東方約700mの人参畠南側の小尾根上に所在する。墳丘は殆ど失われており、石室の石と推測される石が点在するのみである。なお、人参畠の南脇にも古墳の石材と推定される石が集

積されており、人參塚の造成に際し破壊された古墳が存在したものと思われる。

81・82 大平2・3号墳

2号墳は1号墳より約50m東方の尾根上に所在し、石室の石材と推定される4点の大石が露出している。3号墳は2号墳より北東方向へ約150mの平地に所在し、石室の大井石かと推測される大石が数点点在している。ともに墳丘は失われている。

83 大平4号墳

県道須川線の下之郷林道入口地点より沢を越えた南側の尾根上に所在する。墳丘はかなり削平されており、墳頂部が陥没して石室の奥壁基部の石が露出している。また、南西側に天井石と推定される石が1点存在している。

(10) その他

84 下布引古墳

長野大学図書館と大学グラウンドに抜まれた雑木林のなかに所在する。墳丘は無く、石室の石に用いられたと推定される大小10点余りの石が点在するが、現位置に古墳が所在していたかは不明である。最大の石には楔で割られた跡が明瞭に残っている。

引用参考文献

- 小山真太他 「小県郡史」 小県郡役所 大正11年
「長野県町村史」 東信編 長野県町村誌刊行会 昭和11年
森沢直枝他 「上田市史」 上 昭和15年
上野尚志 「信濃国小県郡年表」 上小郡土研究会 昭和24年
「信濃史料」 第1卷1. 信濃史料刊行会 昭和31年
「信州の鎌倉 塩田」 塩田町 昭和42年
小林幹男他 「他田塚古墳発掘調査報告書」 上田市教育委員会 昭和48年
小林幹男他 「上田市の原始・古代文化」 上田市教育委員会 昭和49年
木山一政他 「桙穴原第1号古墳発掘調査報告書」 上田市教育委員会 昭和51年
『長野県史』 考古資料編(1) 遺跡地名表 長野県史刊行会 昭和56年
『長野県史』 考古資料編(2) 主要遺跡(北・東信) 長野県史刊行会 昭和57年

下之郷古墳群一覽表

番号	古墳名稱	所在地	墳形	古墳規模(m)			石室形態	備考
				南北徑	東西徑	高さ		
1	前中山1号墳	山頂	円墳	17.0	15.0	1.2	不明	855前中山古墳 直刀出土
2	" 2号墳	尾根	"	12.0	9.0	1.1	横穴式?	"
3	物見山1号墳	山頂	"	7.5	7.5	0.7	不明	
4	" 2号墳	尾根	"	5.0	5.5	0.6	"	
5	" 3号墳	"	"	6.5	5.5	0.8	"	
6	虹平1号墳	"	円墳?	—	—	—	横穴式?	
7	" 2号墳	山腹	円墳	9.0	8.0	1.2	横穴式	
8	" 3号墳	"	"	6.5	6.5	0.8	不明	
9	" 4号墳	"	"	8.0	15.0	2.0	"	
10	" 5号墳	"	"	—	—	—	"	
11	" 6号墳	"	"	10.0	10.0	1.2	横穴式	
12	" 7号墳	"	"	8.5	11.5	1.1	不明	
13	" 8号墳	"	"	7.0	8.3	1.5	"	
14	" 9号墳	"	"	11.0	11.0	1.0	"	
15	" 10号墳	山沢	不明	—	—	—	"	
16	" 11号墳	"	"	—	—	—	"	
17	" 12号墳	"	円墳	10.0	8.5	1.4	"	
18	" 13号墳	山腹	"	5.5	5.5	1.0	横穴式	
19	" 14号墳	"	"	9.5	9.5	3.0	"	
20	下堂寺1号墳	山麓	円墳?	() () ()	—	—	不明	804下堂寺古墳 棚築?
21	" 2号墳	山沢	円墳	17.0	15.0	1.4	横穴式	
22	" 3号墳	"	"	—	—	—	不明	
23	小森山1号墳	尾根	"	12.0	11.0	1.0	"	801虹平山1号墳
24	" 2号墳	"	"	6.5	6.5	0.5	"	802 " 2号墳
25	" 3号墳	"	"	12.5	12.5	1.0	"	803 " 3号墳
26	東山1号墳	山頂	"	(6.4) (6.4)	(—)	"	"	805東山古墳 棚築?
27	" 2号墳	山沢	"	14.0	14.0	1.4	横穴式	須恵器片出土
28	" 3号墳	山腹	円墳?	(9.5) (9.5)	(1.6)	横穴式?	"	811明神平1号墳 棚築?
29	" 4号墳	"	"	(9.0) (9.0)	(1.7)	"	812 " 2号墳 "	
30	" 5号墳	"	不明	(—) (—)	(—)	不明	813 " 3号墳 "	
31	" 6号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	814 " 4号墳 "	
32	" 7号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	815 " 5号墳 "	
33	" 8号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	816 " 6号墳 "	
34	" 9号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	817 " 7号墳 "	
35	" 10号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	818 " 8号墳 "	
36	" 11号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	819 " 9号墳 "	
37	" 12号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	820 " 10号墳 "	
38	" 13号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	821 " 11号墳 "	
39	" 14号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	822 " 12号墳 "	
40	" 15号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	823 " 13号墳 "	
41	" 16号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	824 " 14号墳 "	
42	" 17号墳	"	"	(—) (—)	(—)	"	825 " 15号墳 "	

番号	古墳名称	所在地	墳形	墳丘規模(m)			石室形態	備考
				南北径	東西径	高さ		
43	東山18号墳	山腹	不明	(-)	(-)	(-)	不明	826 明神平16号墳 煙滅?
44	" 19号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	827 " 17号墳 "
45	" 20号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	828 " 18号墳 "
46	" 21号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	829 " 19号墳 "
47	" 22号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	830 " 20号墳 "
48	" 23号墳	"	"	(18.0)	(18.0)	(-)	"	831 " 21号墳 "
49	" 24号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	832 " 22号墳 "
50	" 25号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	833 " 23号墳 "
51	" 26号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	834 " 24号墳 "
52	" 27号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	835 " 25号墳 "
53	" 28号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	836 " 26号墳 "
54	" 29号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	837 " 27号墳 "
55	" 30号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	838 " 28号墳 "
56	" 31号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	839 " 29号墳 "
57	" 32号墳	"	円墳	18.0	15.0	2.2	横穴式	明神平1・2号墳?
58	" 33号墳	"	不明	-	-	-	不明	明神平21号墳?
59	" 34号墳	山沢	"	-	-	-	"	明神平22~29号墳?
60	" 35号墳	"	"	-	-	-	"	明神平22~29号墳?
61	他田塚古墳	山麓	円墳	18.5	17.2	4.0	横穴式	806 他田塚古墳昭和47年発掘調査
62	駆穴原1号墳	"	"	20.5	21.5	3.3	"	807 駆穴原1号墳昭和50年発掘調査
63	" 2号墳	"	"	15.0	12.5	1.7	横穴式?	808 " 2号墳
64	" 3号墳	"	円墳?	(-)	(-)	(-)	不明	809 " 3号墳 煙滅
65	" 4号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	810 " 4号墳 "
66	宮原1号墳	"	円墳	7.2	7.2	1.4	"	840 宮原1号墳
67	" 2号墳	"	"	7.0	7.0	1.3	"	841 " 2号墳
68	上雲省1号墳	丘陵	"	8.7	8.0	1.5	横穴式	842 上雲省1号墳
69	" 2号墳	"	不明	-	-	-	不明	843 " 2号墳
70	" 3号墳	"	"	-	-	-	横穴式	844 " 3号墳
71	下雲省1号墳	"	円墳	7.0	8.0	1.5	不明	845 中云省古墳
72	" 2号墳	山麓	円墳?	(-)	(-)	(-)	"	煙滅?
73	入雲省1号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	煙滅?
74	" 2号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	"
75	浅間原古墳	"	"	(-)	(-)	(-)	横穴式	846 浅間原古墳 煙滅?
76	夫婦古墳	"	"	(-)	(-)	(-)	不明	煙滅?
77	善塚古墳	"	"	(-)	(-)	(-)	横穴式	847 善塚古墳 煙滅
78	塚原1号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	848 塚原1号墳 煙滅
79	" 2号墳	"	"	(-)	(-)	(-)	"	849 " 2号墳 "
80	大平1号墳	尾根	不明	-	-	-	不明	
81	" 2号墳	"	"	-	-	-	"	
82	" 3号墳	"	"	-	-	-	"	
83	" 4号墳	"	円墳	-	-	-	横穴式?	
84	下布引古墳	山麓	不明	-	-	-	不明	

第4章 総括

この報告書は、上田市塙川平東線の山林中に所在する古墳を確認するために行った、詳密分布調査の結果である。

ここは通称「東山」と呼ばれ、数多くの古墳のあることが、はやくから知られ、多くの先学による調査研究があり、報文が出されている。所在古墳を一括して「東山古墳群」とか「下之郷古墳群」などと呼び、一定していない。調査に際しその事前打合わせで、広範囲にわたる山林内的一部に「東山」と呼ぶ地籍があり、そこにある古墳群を「東山古墳群」というのが適当となった。よって金城にわたるのを「東山古墳群」と呼ぶのは不適であるとし、字名「下之郷」により「下之郷古墳群」と呼ぶことにした。

下之郷古墳群の所在する一帯が、漸次開発されることが予想されたことから、先学の報文で各古墳の所在地点を確認したところ、報文によって相違のあることがわかり、これから保護対策樹立に支障のあることとなった。よって各報文を踏まえながらも、まったく初調査の立場で、東山山塊全域にわたって詳密分布調査を実施した。

調査は上田市教育委員会が組織した調査団5名と地元有識者2名の計7名で、昭和62年4月から5月にかけ約15日間実施した。調査期間中はまたま山火事があり、初日に調査を済ませた地域の一部がその火災を受けたことから再調査するなどの曲折もあったが、予定期間に内に終了することができた。

調査にあたってはさきにも述べたが、いままでの報文を検討しながらも、それにとらわれることなく、実地踏査による悉皆調査を基本的な立場とした。そして上田女子短期大学および長野大学北東方の山地内からはじめ、漸次南東方向へ進み、全城を巡査した。山地内を歩き、土盛、石積、集石、門地など地表での変化を見付け、そこを全員で古墳と認めるかどうかの協議をした。

その結果、「墳丘、石室が確認されたもの」17基、「石室の存否不明であるが、土盛か墳丘と確認できたものと、封土の土盛は崩落して、今見ることはできないが、石室であると認められる石積のあるもの」21基、「集石があり、それが古墳の石材と推定され、古墳があったと認められるもの」6基であり、古墳と確認されたものの総計は43基であった。なお、先学の報文に記載はあるが、今回の調査では知ることができなかつた古墳は41基である。

確認できた古墳のうち、他田塙古墳、塙穴原第1号墳は、上田市教育委員会によって発掘調査され、報告書も刊行されているから詳細を知ることができる。その他の古墳については、外観できる現状の所見を述べただけであり、今後の精査に期待することにした。

古墳名称設定にあたっては、まず支群名をその地籍名によって括し、個々の古墳名は支群内の通し番号を付することにした。

この調査でもっとも大きな成果は、地図上に印した古墳の所在地点である。より正確を期するため、衛星測量研究所に古墳の所在地の光波測量を依頼した。もし必要古墳探訪に際しては、この分布図を読むことによって、その目的を達することができるものと自負している。

歩道もない山林の中、森の中での調査は労の多いことであったが、市教委当局、調査団、地元の方々の協力により、終了することができた。また、報告書作成に当たっては塙崎幸夫氏の尽力が多大であった。

関係各位に心より感謝の意を表するものである。

図 版



小牧山塊遠望（南西より）



前中山1号墳



紅平2号墳



紅平6號墳



紅平14號墳



下堂寺2號墳



小森山1号墳



東山2号墳



東山32号墳



他田塚古墳



家穴原1号墳



上雲雀1号墳

上田市文化財調査報告書 第30集
下之郷古墳群

発行 1988年1月30日

上田市教育委員会

印刷 撮写真測図研究所
